



社会医療法人近森会

発行

2014年1月25日

びろっば 2

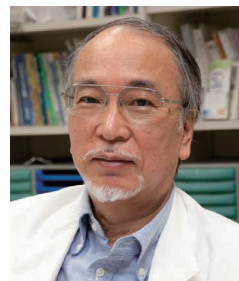
Vol. 331

www.chikamori.com ● 高知県高知市大川筋一丁目1-16 〒780-8522 tel. 088-822-5231 発行者 ● 近森正幸 / 事務局 ● 川添昇

近森リハビリテーション病院新築

新しいリハビリテーションを

近森リハビリテーション病院
院長 佐々木 司



患者さんや職員の安全第一に

江ノ口川を挟み、近森病院と対面する南側の広大な敷地で、平成25年12月起工式が行われ、いよいよ新築工事が始まった。竣工は平成27年5月を予定している。平成元年に建築された現病院は、増改築をしながら25年を経過した。設備の老朽化、そして当時107名だった職員は、現在350名と

なり職員スペースの不足等から新築移転することとなった。新病院は、患者さんや職員の安全を第一と考え、地上8階建ての免震構造とし、また津波に備え病棟は3階以上に置いた。第二として患者さんは当然であるが、そこで働く職員の働く環境を重視した。



取り入れたいと思っている。

より広い病棟スペース

3～6階は病棟で従来より広いスペースと各階10床個室を確保し、浴室にリフトを置き重度の患者さんの入浴を可能とした。また、病棟内訓練室を新設し、棟内生活での自主訓練の充実を図っている。

臨床栄養部や薬剤部など

7階は臨床栄養部（より美味しい嚥下食のための調理器具導入）と薬剤部が入るが、主に職員のためのスペースとしてスタッフルーム、職員食堂、カンファレンス室、会議室、図書室、医局等を配置した。

患者さんの憩いの場として

8階スペースは患者さんの憩いの場である屋上庭園を造り、災害に備えての備蓄倉庫も置いた。市街中心部であるため、土地の確保が中々困難であったが、幸い、思ったより広いスペースが得られた。10数年後には訓練室や病棟をロボットが歩き回ることも夢ではない。

ささき まもる



近森リハビリテーション病院

8F 屋上庭園（ウッドデッキ）
備蓄倉庫

7F 医局、薬剤部、臨床栄養部
厨房、図書室
職員食堂、スタッフルーム
会議室、カンファレンスルーム

6F 病棟

5F 病棟

4F 病棟

3F 病棟

2F 外来診察室、検査室
リハビリ訓練室
義肢装具室、理学療法科
作業療法科、言語療法科

1F 駐車場、総合受付
医療相談室、売店

新たな機器の導入

1階はおもに駐車スペースで建物部分はラウンジや売店、受付など。2階は外来と各種検査室および訓練室とした。今日、リハビリテーションの必要性は普く認められ、全国の回復期リハビリテーション病棟数も目標数に達している。

しかし、どのようなリハビリテーションがより治療効果を上げることが出来るかは未だエビデンスが得られていない。そのため、より科学的評価とその応用を目指し、「3次元トレッドミル歩行分析システム」「天井吊り下げリフトでの免荷歩行」「筋電図・エコー検査」「義肢装具室の整備拡張」「嚥下検査・治療機器新設」「rTMS」等の導入を計画している。将来的には大学病院等他施設に協力をお願いしBMIを利用した新しいリハビリテーションを



給食は休職??

近森病院臨床栄養部

科長 佐藤 亮介

ひと昔前、医療機関における管理栄養士業務とは、献立作成、調理等の給食管理業務が中心でした。チーム医療の発展、診療報酬改定に伴い、この十年余りで病院管理栄養士の職域は、給食業務から病棟業務へと大きく変化しました。

ゆえに当部署においても、近年入社してきたスタッフのなかには、現場(厨房)での調理・給食業務の経験がない者もいます。

では、我々が料理ができないのでは?と思われるがちですが、宮澤部長は板前修業の経験もあり、魚のさばき方

などまだまだ健在、上村、吉田の両科長は、ウン十年の経験をもつ給食のスペシャリスト、当の私はと申しますと前職は調理師で、近森会就職時は午前は厨房、午後は病棟と二足のわらじを履いてのスタートでした。

今でも1年に1回、近森会のスタッフに自慢のカレーを振舞い好評?!を得ております。その他、料理の腕に覚えのあるスタッフも大勢おり、「近森キッチン」で講師を務めたりしております。

私たちのもう一つの顔をご覧くださいたい方ぜひご参加を……。

さとう りょうすけ

職員旅行

ディズニーランド。家族でおおはしゃぎ!



2月の歳時記

マーガレット

近森オルソリハビリテーション病院
作業療法士
内川 千里



マーガレットはギリシャ語の「真珠」を意味する言葉「マルガリーテ」が名前の由来といわれています。また、葉が春菊に似ていることから木春菊ともいわれています。花言葉は「誠実」。子供の頃、華道で用いる花のなかで一番好きな花でした。白く可憐なマーガレットのように今でも誠実な心を忘れずにいたいと思います。うちかわ ちさと



絵・総務課
広報担当
公文幸子

年齢順ということで昨年6月から書かせて頂いているこの小文も9回目になり、書き始めに依頼されていた“医療と人生に対する信条”というか「私の流儀」を書かなければならなくなりました。

流儀があるかと自問して直ちに答えられず、医師になった時代まで遡って考えました。私の世代は、勇敢だった団塊世代(全共闘世代)の直後の世代で、団塊世代の「何でもできそう」という気分を引き継ぎながらも団塊世代が引き起こした影響を被った(例えば昭和44年2月は東大入試が行われず、2年間以上受験が難化した。大学内のみならず

精神科現場を見学して、精神科疾患が自分の想像と相当違うことに気づきました。また医師不足解消の国策として、既存の各医学部医学科の入学定員が、私の入学後(大学により少し違ったが)1年後か2年後に1.2~1.25倍になり、かつ続々と単科医科大学や医学部が新設され、その結果わずか4年で国公立計の医学科入学定員が1.5倍になり(最終的には1.8倍になった)あとの医学生世代に追いつけられている気分になりました。6年後、卒業する頃には医学/医療とも急速に進歩し始め(講義でCTの登場を聴いた

気儘エッセー 9

私が医師になった時代



近森病院外科部長
たなか りょうすけ
田中 洋輔

たが実際には未だでした。しかし登場するやその普及は急速でした。)もはや二足の草鞋を履ける時代ではないと気づき(現在のよう臨床研修制度はなく研修体験無しで)方向転換して外科を選びました。その理由は、虫垂炎や胃十二指腸潰瘍穿孔→腹膜炎、潰瘍出血等の疾患モデルから、外科は技術を身につければ人助けができると単純に考えたからでしたが、その後虫垂炎も潰瘍も減少し、潰瘍出血は外科が扱わなくなりました。そして外科の扱う主対象は癌になり、手術のみでは再発し死亡する癌患者さんに悩むことになりました。

診断基準とスコア化で行う現代医療？

～医療標準化の落とし穴～

近森病院神経内科
主任部長 山崎 正博



今の若い医師は気の毒ですね。私が医師になった36年前と比べて、学ばなければならないことは何十倍、あるいは百倍を超えていると思われま。膨大な医学知識のなかから普通の医師が適切な診断・治療を行う標準化・客

観的な方法の一つが「診断基準」と「スコア化」であり、それをまとめたものが各種ガイドラインですね。

このようなガイドラインの流れに乗った医療に、いまの若い医師は満足しているのでしょうか。年寄り医師の冷や水といわれるかもしれませんが、診療を通じて得られた知識・情報を活かす、という医師の本領を忘れて、診断

基準に合うかどうかの検査ばかりに夢中になり、あるいは患者の現症から離れたスコア化により、重症度や予後を判断するというようになっていないでしょうか。

各種ガイドラインは、経験がなくても正しい診断と治療が行える手だてとしての意味はあると思いますが、それに準拠して医療を進めてはいけな面もたくさんあります。諸外国のガイドラインは強制力がありますが日本はそこまではいたっていません。参考程度という扱いですね。診断基準、スコア化に最も遠いところに位置しているのが神経内科かもしれません。

今回で神経内科今昔物語を終えますが、病歴を重視し、診察所見から考え、検査が少なく、コストのかからない科が神経内科です。昔も今も変わりませんね。 やまさき まさひろ

私の趣味

バレエ

高知ハビリテーリングセンター
就労移行支援部
ウォーラー 美緒



小学4年生のときに肥満度要注意と診断され、母が慌ててバレエ教室に入れたのがきっかけでバレエを始めました。周りより自分が太いことや、身体が堅くて筋肉が弱くバランスが不安定なため劣等感がありましたが、厳しいけれど親身に指導をして下さる先生に支えられ気が付いたら社会人になっても続けていました。

レッスンを通じて、他人と比べるのではなく一歩一歩自分が前進できるように努力する大切さを学びました。綺麗な音楽に合わせて身体をほぐすことで日ごろの疲れや心も癒されます。

ところでバレエといえば「白鳥の湖」や「くるみ割り人形」が有名ですが、私は「 Coppélia 」が大好きです。ある青年が Coppélia に恋をしてしまい、婚約者が怒って三角関係？と思ったら実は Coppélia は人形だったというストーリーが面白いです。演じられるからくり人形たちもとてもユニークで笑いに溢れている作品なので、機会があればぜひいちどご覧になってみてください。

うおーらー みお

その時歴史が動いた

その1. 地域医療支援病院への最初の一步



近森 正幸

これまで近森はなんだか大きな自己変革をくり返してきた。自分は臨床医であったので現場の目線を見て、現場のニーズを感じ、自由な発想で何ごとにもとらわれず病院を変えてきた。今回からそんな病院を変革してきたいくつかの出来事を書いてみたい。

平成11年(1999)9月のある日、整形外科の衣笠部長から「相談がある」と連絡が入った。整形外科の患者さんは痛みを伴うことが多いので、毎日リハビリや物療に通っている患者さんも多かった。午前中は外来診療に忙殺され、お昼も食べずに手術室に入って回診は夜中になっていた。「もう少し人間らしい生活がしたい」というのが相談の趣旨だった。

ふつうなら医師を増やして対応するべきであろうが、その当時医局は先生方のニーズが高く、医師を増やすことができなかつた。増大する入院、外来診療の業務に、医師の増員で対応するという常識は通らなかつた。

翌10月から、多すぎる外来患者さんを地域のかかりつけの先生方へ逆紹介させていただき、外傷などの救急対応と紹介外来、手術後の専門外来に徹底的に絞り込んだ。「地域医療連携」がやっと話題にのぼり始めたころのことである。こうすることで午前中の大変さが緩和され、現在では朝いちばんから3、4列で手術が開始されている。

そのとき足がふるえたが、自分も「外来がいっぱいで喜ぶ院長から、ガラガラで喜ぶ院長」に、180度転換していた。

こうすることで地域の先生方が安心して近森病院に紹介してくれるようになり、紹介患者さんは倍近く増加している。平成23年11月完全予約専門外来の外来センターが稼働し始め、さらに外来患者さんを絞り込むことで、先生方は入院医療に専念できるようになった。

医師はじめ、スタッフのやる気を大切にするために地域医療連携を進め、これが、地域医療支援病院にいたる最初の一步となった。

理事長・ちかもり まさゆき

有意義で贅沢な時間を

宗教法人日本プレスビテリアンミッション

淀川キリスト教病院管理栄養士 稲垣 好美
中川 瑛理

私たちの働く淀川キリスト教病院は、「天下の台所」と呼ばれる大阪にあります。今回、NSTで有名な近森病院で研修ができるという事で、慣れ親しんだ土地を初めて離れるという不安もありましたが、期待に胸を膨らませてやって来ました。

近森病院では、多職種が密にコミュニケーションを取っていて、患者さんに寄り添ったチーム医療を提供しているのだと感じました。そのなかでも管理栄養士の皆さんは、患者さん一人ひとりに合った栄養サポートをするために、試行錯誤しながらもいきいきと働かれています。間近でその姿を見て、「わたしたちもこんな風に仕事がしたい!」と感銘を受けました。

優秀論文賞受賞

patient first の心と
scienceの眼差しを持ち



学会長の山口大学の鈴木教授(右)と

近森病院脳神経外科
西本 陽央

去る2012年4月6日、第75回日本脳神経外科学会中国四国支部学術集会で発表した演題「開頭術後に開頭部位から離れた場所に新たに発生した硬膜動静脈瘻の2例」が、優秀論文賞に選ばれ、先日の第76回集会で表彰していただきました。

未だ成因が解明されていない硬膜動静脈瘻の発生に関してさらに考察を行い、症例報告として現在投稿中です。ご指導いただきました先生方にはこの場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。難しいことではありますが、日々の臨床の中で patient first の心と science の眼差しを持って仕事をしたいと思います。今後もしもご指導をよろしく願いいたします。 にしもと よう

NSTカンファレンスでは、病態を理解したうえで、栄養管理を考えること



カンファレンス中の二人(向かって左)

メディカルスタッフ・ワークウェア 17 最終回 管理部

モデル・医事課島田さん(左)と秘書課岡崎さん



当院の管理部は、男性はスーツまたはブレザーであり、女性は制服が定められている。窓口で最初に患者さんに接する職員として、安心感と清潔なイメージを与えるデザインを選んだ。医師や医局を支える秘書課はデザインの違う制服で、ともにコンセプトは共通で、自分たちで選んだ制服である。

「管理部の役割は、病院運営、診療支援、経営管理、院内環境の整備など多岐に渡るが、どの部署でも共通していることは、刻々と変化する医療情勢を的確に把握し、職員が能力を発揮出来るように職場の環境を整えること。

『縁の下の力持ち』ではなく『病院マネジメントのプロ』となり、質の高い医療を提供し続けていくため、これからもみんなに地道な努力を続けてもらいたい。

(川添昇管理部長談)

ワイン講座 ● 19

「ワイン薬剤師」が生み出した 伝説的なリキュール

バローロと聞けばピンとくる方は多いと思いますが、カッペラーノ家と聞いてピンとくる方は少ないかと思えます。

カッペラーノ家の歴史はバローロの歴史そのもので、100年を超える歴史があるバローロ屈指の名生産者ながら、前当主がジャーナリズム嫌いなため、その名前は日本ではほとんど知られていません。

1886年、ジュゼッペは大学で薬学を学び、非凡な薬剤師として能力を発揮し、この頃に考案した製品のひとつが、イタリアワインの歴史に残る濃密で味わい豊かなバローロ・キナート。バローロ・キナートとは、バローロ・ワインに香気豊かな薬草の風味を漂わせた、アルコール18%の高濃度な味わいのもの。

バローロ・キナート/生産者カッペラーノ/イタリア、ピエモンテ州ランゲ地方●恋に、苦さと切ない思いはつきもの。甘さのなかに苦味を秘めたリキュールの傑作。バレンタインに一味違った、大人の女性からのプレゼントに最適です。

造り方は、一子相伝ながら、キナの木の樹皮、クローブ、ニガヨモギ、シナモン、サトウキビ糖等のオリジナル・レシピで造られます。地元では、ランゲ地方の農民たちから、滋養強壮によく効く唯一の家庭常備薬として長い間親しまれ続けています。

甘く、そしてホクホク独特の味わい。食後にちびちび飲むか、ビターなチョコ、トリュフ・チョコと一緒に楽しむか、相性は抜群です。

鬼田知明 (有限会社鬼田酒店代表)

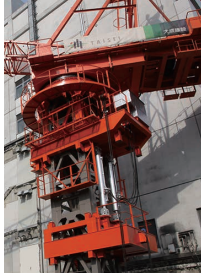


向かって左側が中川さん、右側が稲垣さん



● 新本館建設中のクレーンのなかで ●

顔は恥ずかしいとのこと



21 歳！ 女性一人で操作

今年夏の完成に向け急ピッチで建設が進んでいる新本館にひときわ高い赤と白のクレーンが建っている。

このクレーンを操作しているのが今年 21 歳になる河田直美さん。「ほとんどが男の現場」で仕事をしようと思ったのは、まだ 40 歳前の母がクレーンを操作しているのを見て、「カッコいい」と思ったから。

最初は造船所のクレーンに乗り、初めて建設現場に配属された。今回

54m にもなる上空での作業は朝から夕方まで、休憩はあるものの一日中降りてはこれない。空中の狭い部屋でお昼ごはんも休憩も、トイレも済ます。

休憩には音楽を聴くのも気晴らしになるが、なんといっても「見晴らしがいい。ことに夕日が素晴らしい」ことがいちばんだという。風の強い日は足がすくむときもある。もっとも風速 10m 以上になると作業は中止になるそうだ。日々ハードなスケジュールだが「でも、下でみんなも働いていますから」と仕事仲間を思いやれる素晴らしい 21 歳だ。

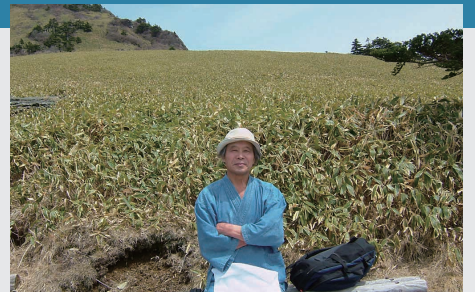


院 外 エ ッ セ イ

怪我や歳にめげず挑戦の日々

オーディオ研究家 山本 勲

やまもと いさお 1935 年 6 月 20 日高知県四万十町栗の木生まれ。高知市南万々で高知音波研究所設営、音楽喫茶店「845」を併設。20 年ほど前、バスを改造した移動オーディオ・システムを製作、「全国縦断オーディオ武者修行を実施」。現在は千葉県鴨川市に在住し、独自のオーディオ製作や雑誌への発表、海釣りや山菜のオリジナル料理に挑戦している。 HP : <http://www1.ocn.ne.jp/~isao845/> tel : 04-7093-0845



平成 24 年の年末の転倒事故で頭部と全身を強打して、昨年是一年治療に費やしてしまいました。

いまだに右手先が何かと不自由でパソコンのインプットも充分にこなせません。頭を強打したことで頭鳴り（耳鳴りとは少々様子がちがいます）がなかなか治まりません。いろいろと検査と治療を受けましたが、あまり改善していません。

このままでは、わたしの音楽人生は終焉となります。当初に比べますと少しは改善してきているようでもあり、これからも根気よく完治を目指して頑張るつもりでいます。

それに、いつまでもくよくよしていてもラチがあきません。今年、8 年来の懸案であった「大型平面振動板スピーカー」の設計、製作を手がけています。これは片チャンネル 1m²、L&R で 2m²、6 半（160mm Φ口径）に換算しますと、L&R で 150 本位の面積ということです。

これは、鹿島建設と英国サザンプトン大学が開発したまったく新しい立体音響方式で、マランツが製品化を担当している OPSODIS システムの重低音域用となります。

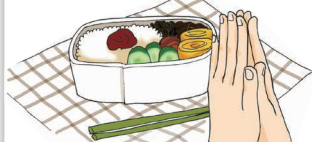
据え付ける部屋はわずかに四畳半足らずの小部屋ですが、OPSODIS シス

テムの重低音域の配置は、一般のシステムとは少々違って、左右は対向して設置することが最良の設置条件とされているため、小さな部屋でもなんとか設置できるわけです。

このシステムを、ちょうど私の 80 歳の誕生日となりますが、2015 年の 6 月までに完成する計画を立てており、いま技誌（「ラジオ技術」というオーディオマニア専門の月刊誌）と相談しながら進めています。

最近は何のせいか病気や怪我が多いのですが、まだまだ！ という気持ちだけは強く持ち続けていきたいと思っています。

お弁当拝見 22 バランスのとれたメニューを心がけ



診療支援部医事課 岡崎 妙子



結婚した当初は、主人にハートのそぼろ弁当をもたせたりと朝から熱く情熱をかけて作っていましたが（笑）、14 年たった今ではすっかり手抜きも覚え、「楽チン」「時短」がモットーになりました。

いまだに黒い焼き魚や、殻の入った玉子焼きのときもありますが、あの頃の恥ずかしいお弁当よりははずっとマシと喜んで

食べてくれています。

夕食の残りや朝食のおかずを入れ、簡単に 1~2 品ほど作り彩りよく野菜をつめたら完了。健康に気を配る頃になってきたのでバランスのとれたメニューを心がけています。

実家の母は 63 才になった今でも父と妹のお弁当を作っています。母にはまだ

まだかないませんが、気負わず、無理せず、でも愛情たっぷりの手作り弁当を続けていけたらと思っています。

おかざき たえこ

PS サポーター

満足いっぱいの職場づくり
を目指して



近森オルソリハビリテーション病院
5階病棟介護福祉士 南 博人

皆様お疲れ様です！皆様と一緒に近森会をPSの面から盛り上げていきたいと思っているPSサポーターの南です。PSって何？と、疑問に思っていません。Participant Satisfactionの略で参加者満足のことです。職員の皆さんの満足、患者さんの満足、両方を上げていけるようにこれからも活動していきます。まずは「笑顔で挨拶から」をモットーに頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお祈りします。

みなみ ひろと

● お知らせ 医療従事者対象 ●

● 第127回地域医療講演会

「患者とともに生きる医療」

日時：平成26年2月7日（金）

18：00～19：30

会場：ホテル日航旭ロイヤル

3階ゴールデンパシフィック（東）

講師：社会福祉法人三井記念病院院長

高本真一先生

● 第128回地域医療講演会

「多職種での足外来」

日時：平成26年2月10日（月）

18：00～19：30

会場：管理棟3階会議室2-3

講師：同新古賀病院糖尿病センター

兼創傷外来看護師長

石橋理律子先生

社会医療法人天神会

新古賀クリニック

リハビリテーション部理学療法士

猪熊美保先生

● 第129回地域医療講演会

「植込み型除細動器患者のメンタルケア」

日時：平成26年2月13日（木）

18：00～19：30

会場：管理棟3階会議室

講師：九州大学大学院医学研究院

保健学部門教授 榑木晶子先生

● 近森病院 mini 公開県民講座

「大好きって相手の幸せを考えること

ー10代から知っておく性、

デートDV、LINE……についてー」

日時：平成26年3月23日（日）

14：00～15：30（開場13：30）

会場：管理棟3階会議室

講師：ウィメンズクリニック・かみむら

院長 上村茂仁先生

■■■ 乞！熱烈応援 ■■■

ニーズに応じて柔軟に

近森病院総合診療科

部長 杉本 和彦



就職してはや9カ月が経ちました。ERでは「軽症から重症まで多くの診療領域にまたがる症状と疾患」が診られます。このERでこそ若手に多様な教育が行え、豊富な経験を積ませ、総合診療医を育てる環境に適していると実感しました。総合診療科は何でもやるわけでも、やれるわけでもありませんが、専門診療科がその機能を発揮するためにはなくてはならない診療科だと考えています。総合診療科は絶対にこういうものだ、という確固たる定義は持たず、ニーズに応じて柔軟に変化し得る診療科でありたいと考えています。

すぎもと かずひこ

笑顔で自宅退院できるよう

近森リハビリテーション病院

リハビリテーション部

療法士長 澤本 静



今まで急性期、回復期、生活期での理学療法に従事させていただき、ようやくリハ医療職としての一連の動き方や考え方が解り始めたかな？という状況での辞令でした。今までPTスタッフを中心とした業務が、これからは病棟PT、OT、ST、CP（臨床心理士）全体を任されることになりました。着任して慣れない業務に七転八倒で周囲にご迷惑ばかり掛けている毎日ですが、これまでの経験を少しでも活かして、どんな患者さんでも笑顔で自宅退院できるよう、スタッフ全員とともに日々精進したいと思っております。 さわもと しずか

克己心

近森病院循環器内科

科長 今井 龍一郎



以前近森病院へ在籍していたときは日々の診療を行うことで精一杯でしたが、諸先輩や周囲の方々に助けていただいたことを思い出しました。

これからは自らが診療を行うことはもちろん、自分がしていただいたことを還元できるように、また後輩の模範となれるように自覚して行動しなければと、改めて感じます。

自分自身まだまだ修業が足りませんが、自分に打ち克てるように精進したいと思っています。今後とも宜しくお願いいたします。

いまい りゅういちろう

新たな気持ちで

診療支援部医事課

課長代理 竹崎 智博



昨年9月まで医事課にて勤務しておりましたが、今回新たな立場での辞令をいただき、気を引き締めて一から業務に邁進していきたいと考えております。今後、超高齢化社会を迎えるにあたって、医療業界を取り巻く環境は大きく変化しており、私自身こうした時代の変化に柔軟に対応できるよう、一歩ずつ確実に精進を重ねて一日も早く現場の皆さんのサポートができるよう努力したいと思います。その間いろいろとご迷惑をおかけしますが、何卒ご指導ご鞭撻の程宜しくお願いいたします。

たけざき ともひろ

■ ■ 感染防止対策連携加算における相互訪問 ■ ■

感染対策の 充実を図るために

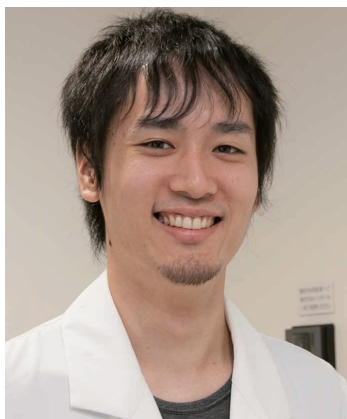
近森病院感染対策委員会
シニア看護師長 近森 幹子



昨年12月4日、国立病院機構高知病院、高知赤十字病院の感染対策担当

ハッスル研修医

財産



初期研修医 瀨田 龍正

内科をローテートし始めてようやく4カ月ほど経とうとしています。病棟で看護師さんに怒られることも少なくなってきたように思います。

日々各科の先生やコメディカルの方々からちょっとしたことでも指導していただきありがたく思っています。やはり書物で勉強するのも大切だと思いますが、臨床現場で直接教えていただいたことは響きます。

内科での研修も残すところ循環器の2カ月だけになります。来年は整形外科や脳神経外科など、主に外科系をローテートさせていただく予定です。時間が許せばもっといろんな科をまわりたいです。

僕は将来形成外科で頭頸部の再建などに携わりたいと思っていますが、さまざまな科で勉強させていただくうちに広い視野を持って医療を行うことの大切さをひしひしと感じています。これからも引き続き幅広く勉強していこうと思っています。

近森病院での2年間の経験はきっと将来、自分の財産になることとします。はまだ リゅうしょう

者の方々をお迎えし、当院の感染対策の現状を評価していただきました。これは、感染防止対策加算1を算定している医療機関同士が連携し、複数施設の感染対策実務者の視点で感染対策の

実施状況の評価ならびにアドバイスしてもらうことで感染対策をより充実させることを目的とした訪問です。

当日は、厚生労働省が作成した「感染防止対策地域連携加算チェック項目表」の項目に沿って書類確認および聞き取り、院内ラウンドにて評価を受けました。当院の実施している感染対策の良いところも評価していただき、またさらに対策を講じることが望まれる部分もアドバイスをいただきました。

今回の訪問による評価内容を、職員とともに今後の感染対策に活かしたいと思います。ご協力いただいたみなさまありがとうございます。

ちかもり みきこ



▲院内ラウンド



▲講評の様子

リレーエッセイ

私の癒し

訪問看護ステーションちかもり
看護師 中平 千賀子

私の家にはトイ・プードル（雄犬）がいます。名前はクウ、4歳です。クウという名前はしっかりご飯を食べて、いつまでも元気でいてほしい、との願いで決めました。期待以上に食欲旺盛で、好き嫌いなくとってもやんちゃな犬に育っています。

とくに自慢できる芸はありませんが、お手、おかわり、ふせ、待てなどは出来るようになりました。時々吼えてあま噛みをすることもあります。でも、つぶらな瞳でジッと見つめられていると、魔法をかけられたようにしだいに顔が緩んで笑顔になってしまいます。

この写真は今年のお正月に桂浜で写したものです。初日の出をバックに写真を撮りたかったのですが、残念ながら間に合いませんでした。来



▲今年のお正月、初日の出には間に合いませんでしたが桂浜で愛犬「クウ」と

年の話をするのはとっても早くて笑われそうですが、来年はぜひ日の出と共に……、と思っている今日この頃です。

なかひら ちかこ

理学療法士交換研修報告

浦添総合病院との
人事交流を終えて

近森病院リハビリテーション部
理学療法士 濱口 早千子

理学療法士として同一法人で働いて9年目、将来のことを考えていた時期に浦添総合病院との人事交流の話が耳に入りました。

高知県と沖縄県は平均所得や子供の学力、高齢化、「離島」であるという点で似ているところが多いため以前から興味がある地域でした。さらに浦添総合病院は過去に看護部、薬剤部が交流をした病院である上、ドクターカーやドクターヘリを有し、離島からも患



者を受け入れている救急病院であるため、地域との連携や取り組みなど、当院との違いなどを学ぶのに良い機会でありタイミングだと思わずに立候補しました。

リハビリテーション部はこの数年で急激に人数が増えたため、若手スタッフも多かったのですが、一人ひとりの学習意欲の高さと挨拶や礼儀正しさなどには驚かされました。1カ月毎に配属の病棟が変わり、忙しく日々が過ぎて行くなか、優しいスタッフたちに助けられながらあっという間に日々が過ぎたように思います。

業務後や休日にはスタッフとの交流や観光にも出かけ、この数年は観客となっていた忘年会余興への参加やスタッフの披露宴出席など最後まで沖縄の文化に触れることができた3カ月間でした。今回の人事交流では離れてみて初めて分かる自分の地域や病院の美



▲理学療法士の仲間とともに前列左から二人目

点と改善点を知り、さらには自分自身や理学療法士人生を振り返る良い機会になったと思います。はまぐち さちこ

「細胞検査士」取得

癌細胞に携わる
スペシャリスト

近森病院臨床検査部
臨床検査技師

尾崎 綾乃/千頭 祐一/今本 隼香



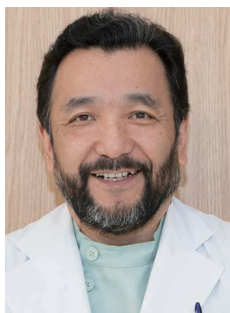
細胞検査士は顕微鏡を用い、癌などの疾患を細胞レベルで検査する臨床検査技師で、癌の早期発見・診断の一部を担う専門家です。細胞診のスクリーニングは、腫瘍細胞や問題となる細胞を絶対に見落とさないことが要求されます。認定試験には一次試験（筆記）と二次試験（鏡検・実技）があり、合格率は平均20%と難関です。

二次試験で行われる鏡検試験では、多くの分野から出題されます。そのため、当院だけではカバーできない分野もあり、高知大学や高知赤十字病院に通って標本を見せて頂きました。また、県外で行われる研修会にも積極的に参加させて頂きました。その結果、三人とも無事試験に合格することが出来ました。

橘主任を筆頭に細胞検査士が四人となりました。これからも研修会や学会などに積極的に参加し、細胞検査士としてのレベルアップを図っていきたいと思います。おさき あやの/

ちかみ ゆういち/いまと はやか

脳卒中地域連携の会 ● 合同会合

活発な論議が
交わされ

高知中央医療圏脳卒中地域
連携の会事務局
近森病院脳神経外科部長 高橋 潔



「高知中央医療圏脳卒中地域連携の会」の合同会合を昨年12月15日にこうち男女共同参画センター「ソーレ」で開催しました。

194名の参加者があり、前半の症例検討会では在宅と施設入所の違いなどで活発な議論がありました。後半では長崎医療センターの高島英昭先生から長崎の地域連携のお話を伺いました。連携パスを使うことにより予後や

在院日数までも短縮させるという意欲的な取り組みが紹介されました。

会の終了後に担当者会を開催し、2014年7月の3回目の改定にむけた話し合いを持ちました。量から質への転換を見据えて、さらなる連携を実のあるものへと変えていきたいと思っています。関係職種は多岐にわたります。引き続きご協力をお願いします。

たかはし きよし

言葉の小宇宙に漂うときを

「バルバラ」の詩に癒やされる

フランスの詩人ジャック・プレヴェール(1900—1977)に「バルバラ」という題の詩がある。シャンソンの代表的なナンバーとして「枯葉」や「バルバラ」は日本でもよく知られているが、北川部長がフランス語にハマるきっかけになったのがこの「バルバラ」のフランス語の音である。十数年前、職員旅行で初めて訪ねたフランスにピンときたわけではなく、その折は「むしろ大学時代に学んだフランス語にある種の懐かしさを覚えた程度」だった。

言語の小宇宙を漂う喜び

フランス語に限ったことではないが、「言語にはそれぞれ一種の小宇宙が広がっていて、その言葉の海に漂う心地よさに惹かれ、これはつまり見知らぬ世界に惹かれる旅行の魅力と同じで、こんな世界を気ままに漂う幸せに浸っていたい……」と、少年のような笑みを浮かべて、ちょっと遠い目で語る部長には、オペ室でのあの緊張感はない。

フランスという国よりむしろ、「フランス語の響きに惹かれる」というのが正確なようだが、高知市内の数少ないフランス語学校や教室はほぼ制覇程度に回り、独学も含めるとすでに10年程度のフランス語歴を持つ。

原書で読む小説は当然フランス語だし、「寝言をフランス語でいうようになればと思うがまだまだ」というのが現在の實力なのだそう。

▼左は診察室で。右はフランス語の仲間と



ほんのちょっと余力を残し……

そんな次第なので、夜中の呼び出しを気にしつつ、たいへんな患者さんのオペでは何日も前から本番へのイメージを湧かして備え、術後の経過で患者さんの状態が頭から離れないような日常生活が、体力的にだんだんきつくなってきたのが、このごろの正直な現状である。

仕事のストレスをあまり感じず自由な時間に思い切りフランス語に割ける時間を、そろそろもっと取りたくなってきた。還暦が近づき、「ほんのちょっと余力を残した現在の段階なら、あとのオフも充実して過ごせる……」。そんな思いが膨らみ、この2月いっばいで近森会を退職することを決意したのだという。

普通の時間帯のお勤め

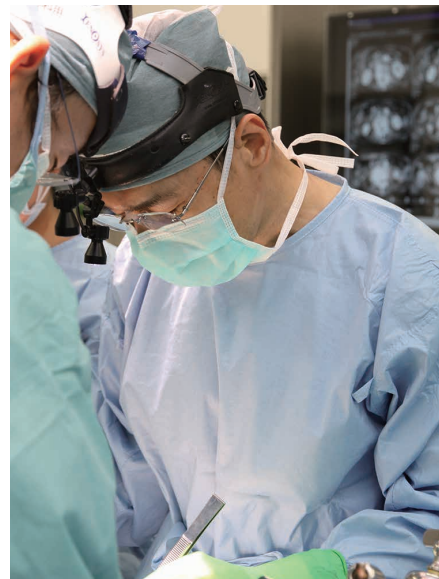
ただし、丸一日、丸一週間、全部を自分の時間として使うのは、この高齢社会においてあまりにも憚られる面もある。

そこで、高知記念病院で「普通の時間帯のお勤め」は続ける予定をしている。患者さんの生死に直結したり、神経をすり減らしたりしてきた外科手術の世界から離れるのだ。

語学の勉強は、すればするほど奥が深いことを知らされ、その海に漂える幸せをしみじみ噛み締めたのだという。

フランスに移住したいとか、長期留学したいなどという思いはない。「短期の旅行者だからこそそのフランスの面白さ」を、この十年、なんとか通うなかで実感してきた。

だから、年に一度くらいずつコンスタントに通い、「旅行者ならばこそその



▲オペ室で執刀する北川部長

贅沢」を味わい、ゆっくり流れる時間を自分の納得のいくペースで作っていききたいのだ。

患者さんにぜひいい置きたい

患者さんの命を自分の手のひらに預かっているという緊張感のなかで、仕事ができたと心から感謝し、「身体に悪いことが分かりきっているタバコはぜひ止めてもらって、お酒もぜひほどほどにして欲しい」と、こんなことを患者さんにはぜひいい置きたいそう。

「北川部長、17年9カ月に亘り、ほんとうにお世話になりました」。

ニューフェイス

①所属②出身地
③最終出身校

④家族や趣味のこと、自己アピールなど



山本賢太郎

やまもと けんたろう①救急科医師②広島県広島市③高知大学医学部医学科④車と子供が好きです。学生の時からレース参戦を続けています。子供は3人、4人目は無いつもりです…。

2013年12月の診療数 システム管理室

近森会グループ

外来患者数	17,669人
新入院患者数	839人
退院患者数	857人

近森病院（急性期）

平均在院日数	13.09日
地域医療支援病院紹介率	95.79%
救急車搬入件数	455件
うち入院件数	255件
手術件数	396件
うち手術室実施	257件
→うち全身麻酔件数	151件

● 平成25年12月 県外出張件数 59件 延べ人数 103人 ●

編集室通信

10歳を迎える学年で「二分の一成人式」というイベントが一部の小学校で行われている。今まで育ててくれた両親へ感謝の気持ちを手紙にしたり、将来の夢を語り合ったりと、内容はさまざまである。我が子やクラスメートの意外な一面が見えて、その成長ぶりに二分の一人前の親は感動するという筋書きだが、泣ける… (にゃ〜ご)

図書室便り (2013年12月受入分)

・形成外科 ADVANCE シリーズII-5 乳房・乳頭の再建と整容：最近の進歩第2版 / 矢野健二（編著）

・臨床・病理 胆道癌取扱い規約 2013年11月第6版 / 日本肝胆膵外科学会（編集）

・膵癌取扱い規約 2013年8月 第6版補訂版 / 日本膵癌学会（編）

・静脈経腸栄養年鑑 2013 / 石渡一夫（編）

・危険・有毒生物 学研の大図鑑 / 小川賢一（他監）

・病院設備設計ガイドライン (BCP 編) / 日本医療福祉設備協会 規格・指針委員会（編）

・障害年金と診断書 障害基礎年金・障害厚生年金平成25年7月版 / 社会保険研究所（企画・製作）

・安全配慮義務 一過労死・メンタルヘルス不調を中心に / 岡田邦夫

・リスクマネジメントとしてのメンタルヘルス対策—現場における問題解決のポイント— / 日本産業精神保健学会（編）

《別冊・増刊号》

・別冊医学のあゆみ 小児用ワクチン Revision up 2014 / 五十嵐隆（編）

・Nursing BUSINESS 2013年冬季増刊 3ステップで職場がイキイキ！看護のワークライフバランスマネジメント実践集 / ナーシングビジネス編集室（編）

《視聴覚資料》

・VIDEO JOURNAL of Japan Neurosurgery Vol.21 No.1 / 永田泉（他監）